

Title	S社製品開発の特質-住宅展示場の計画事例を通して-
Sub Title	
Author	岸上宏(Kishiue, Hiroshi) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1998
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1998年度経営学 第1426号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1426

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	河野 研究会	学籍番号	89728295	氏名	岸上 宏
(論文題名)					
<h2>S社製品開発の特質</h2> <p>—住宅展示場の計画事例を通して—</p>					
(内容の要旨)					
<p>1997年度、日本経済は初の個人消費の減少を経験するなど、第一次石油危機時を抜いて戦後最悪のマイナス成長を記録した。なかでも住宅産業については、前年比マイナス21%成長と、消費不況の影響を最も大きく受けている。しかし、住宅メーカーの中には絶対的な需要減による減収減益を余儀なくされてはいても、他社ほどには業績が悪化していないために、相対的なシェアをかえって増大させている企業がいくつか存在している。</p> <p>S社は樹脂加工の大手で住宅や化学品も手掛けるメーカーであるが、需要の冷え込みによって大きく売上を落とした。従って、S社は、既存事業における新製品の開発の効率を上げたり、商品の競争力を高めることで、今後の収益性を向上させていく必要がある。</p> <p>本研究では、S社の住宅部門、その中の製品開発の一つの過程である住宅展示場計画に焦点を当てて、実際に展示場の外観が当該商品モデルの特徴をよく表すことができているのか、展示場の計画をする時に重要な要素は何か、次々と続く展示場計画の中で、以前の展示場計画の経験を活用する手段はとられているのか、等の疑問点を調査しつつ、製品開発という切り口を通じてのS社の体質や組織風土を明らかにすることを目的としている。</p> <p>そして、実際の展示場をフィールド調査し、展示場の計画を担当した人たちにインタビューを行ない、その結果から、S社の製品開発には属人的要素の重要性が高いこと、化学・樹脂加工メーカーとしての体質から抜けきれていないこと、住宅の標準化と多様化の微妙なバランスが大きな影響を与えていること、等の問題点を具体的に指摘している。</p> <p>さらに、それらの問題点を踏まえたS社への提言を行っている。</p>					